

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年10月22日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.160】

JR内革マル派が集約した巨額のカンパはいずこへ？

本号では、再度、「JR革マル派43名リスト裁判」で原告のJR総連側が2010年6月30日に提出した準備書面に戻り、「No.152」に続き、JR内革マル派と革マル派中央との対立の内容を詳しく自白している部分を検証する。「No.152」で紹介した準備書面について、これまでも引用してきた元JR東労組中央執行委員(現JR労組委員長)の本間雄治氏の週刊現代裁判での証人尋問(2009年3月3日)の内容と対照するなどして詳しく分析していきたい。繰り返しになるが、準備書面の一部を再度記載する。

これに対し、革マル派中央は、1994年7月、「トラジャ」のメンバーの浅野孝を拉致し監禁した。JR内のメンバーは、これを許すことができない蛮行であるとして、それまで形式的に続けてきたカンパの納入や機関紙の購入を取りやめるとともに、拉致監禁されたトラジャのメンバーを解放するよう迫った(当時革マル派の弾圧事件の弁護を行っていた弁護士に間に入ってもらって、交渉の場の設定を頼んだ。なお、弁護士が交渉の場に立ち会ったことはない。)。

これをみると、JR内革マル派は、1994年7月頃から革マル派中央へのカンパの納入や機関紙(「解放」)の購読を取りやめたということである。一方、本間氏は上記の証人尋問で「No.8」で検証した通り、次のように述べている。

(革マル派の)カンパは職場単位 支部単位 地本単位でそれぞれ集められ、地本単位の財政担当者(財担)が集まるJR革マル派の「財担会議」が月1回、目黒さつき会館の地下で開かれていました。私は、1994、95年まで東京地本の所属でしたが、1996年7月6日に横浜地本を新たに作り書記長に就任しました。...(中略)... 1997年ごろから書記長の私が財担を引き継ぎ、少なくとも2002年まで私自身が毎月、「財担会議」に出ていました。各地本の財担は、私を含めA会議を指導する「LC会議」のメンバーでもあり、...(中略)... 私も横浜地本を作る前の1994、95年ごろから2002年までこの「LC会議」に出席し、同会議には梁次邦夫氏(注:浦和電車区事件刑事裁判被告)も出ていました。...(中略)... そして私や梁次氏は、いわば集めたカンパを上納する側でしたが、各地本の財担が集めたカンパを受け取り党中央に渡すのは小田裕司氏と田岡耕司氏の役割でした。

JR総連は巨額のJR内革マル派のカンパ金の行方を説明せよ！

本間氏は1997年頃から2002年までは、横浜地本のJR内革マル派のカンパを集約し「財担会議」に毎月出席して上納し、JR総連前委員長の小田氏と「リスト裁判」原告で準備書面の基となる陳述書を作成した田岡氏(No.133参照)がそれを党中央に渡していたと述べている。これは、上記の準備書面と矛盾している。準備書面によれば、本間氏が「財担」を引き継いだ1997年頃には、すでに党中央への納入は取りやめていたことになるが、本間氏は、小田氏や田岡氏が党中央に渡す役割であったと述べている。仮に、両者の主張が正しいとすれば、JR内革マル派のメンバーは、本間氏を含め党中央への上納の停止を知らずにカンパを集約し、小田氏や田岡氏はそれを党中央に渡さずにいたということになる。

JR内革マル派から党中央へのカンパ上納は再開したのか、それとも凍結のままなのか。仮に後者なら、年間数億円に上るともみられる巨額のカンパ金はどこにいったのか。陳述書の作成者で、カンパの上納も担当していた田岡氏本人に聞けばすべて分かるはずだ。